



### 写真1:野沢温泉スキー場カンダハーコースの遠景

ぱっと見た目、急斜面に先ず驚く。写真中央の林の中に1機のペアリフト。その降場(山頂)に写真2のスタートハウスが建つ。向かって左のコースが西コースと言われ今大会の練習バーン。もし、練習出来ていたなら・・・。少しは・・・。向かって右のコースが東コースと言われ、今大会の本番コース。スタートハウスの位置から東コースの矢印の辺りまでは緩中斜面で20旗門弱。ほとんどクローチングで30~40秒。草レースならこの辺でゴールかな。乳酸が溜まり切るちょい手前で、この大斜面(矢印の辺り)に出て来る。人によってはこの斜面に出て来ず終わる人も。



### 写真2:カンダハーコース山頂のスタートハウス

ペアリフトを降りた目の前にスタートハウスがドーン。よくある鉄パイプを組立てたビニール製のスタートハウスではなく、ちゃんと基礎を打っている木造のスタートハウスに先ずは驚き見上げる。向かって左側が西(練習)コース用。右側が東(本番)コース用。大会当日は西(左)側が入口となり選手が群がる。スタートハウスの中には各スキーマーカのスタッフが居て、ブーツソールの雪下ろしやビンディングの最終チェックをしてくれる。スタートハウスの中は、風・気温・音などが遮断された感じがして、自然と気分が高まり、さながらワールドカップ選手になりきれれる。



### 写真3:ゴールエリアから見た大会コースの後半

スタートから20旗門弱(30~40秒)をクローチングで来て、程よく乳酸が溜まったところで、この大斜面に出てくる(オーバー40には結構きつい)。この斜面に出た瞬間は、写真4のように落ちていくような感じの急斜面にビビる。それと同時に、急斜面特有の大きな穴がコースのあちこちに開いていて、それに突っ込んで飛ばされそうになりを繰り返す、更に腰が引けますますます棒立ちになる。必要以上にズーツと力んでいるため、矢印の辺りで乳酸がピークをむかえ更に自分のスキーが出来なくなる。そして・・・、『ヤベツ! ゴールできないかも?』が頭をよぎり、すっかり守りの滑りに・・・。

(実は守りの滑りではなく、すっかりヨタッてしまい、そういう滑りしか出来なくなっているのです。)

厳しい急斜面を耐え抜き、ゴール前の中緩斜面を惰性で滑り、何とかゴー————ール!!

**記録: 成年男子C組119人中  
117番スタートで  
1分20秒39  
73位 でした。**

(因みにトップは1分6秒68で、13秒71差でした)



### 写真4:西(練習)コース側から見たゴールエリア

スタートハウスで西と東に分かれたコースは、ゴールエリアで合流。斜度のきつさが分かります。写真3の大斜面に出てくる時が、こんな感じに見えます。